

2023 年度入試 一般選抜（第 2 次募集） 民事法系出題趣旨

I

- (1) 帰属上の一身専属権と行使上の一身専属権について、これらの概念が用いられる文脈の違い等に留意しつつ、それぞれの特徴を的確に叙述できているかをみる問題である。
- (2) 配偶者居住権と配偶者短期居住権について、権利の存続期間や、第三者対抗要件を具備することが可能か否か等の相違点を挙げつつ、それぞれの特徴を的確に叙述できているかをみる問題である。

II

問(1)は、他人物の売主が、買主に対して当該物の移転義務を果たすことができなかつた場合に、買主は売買契約をどの規定に基づいて解除することができるか、また、解除が認められた場合に、原状回復義務として売主と買主のそれぞれが具体的にどのような内容の義務を負うかについて、規範を正確に理解しているか、およびそれを事案に適切にあてはめることができているかを問う問題である。

問(2)は、車が土地上に放置されているために当該土地の所有者がその利用を妨げられている場合に、当該車の留保売主は、留保している所有権に基づいて、あるいは車の登録名義を依然として有していることに基づいて、どのような義務を土地所有者に対して負うかについて、規範を正確に理解しているか、およびそれを事案に適切にあてはめることができているかを問う問題である。

III

当該事項についての理解度を見る。

IV

株式交換制度についての理解を見る。

V

剰余金の配当規制についての理解を見る。